



エコロジア第一太陽光 発電所だより vol.02



発行：2016年11月12日
株式会社エコロジア
080-5458-1477
<http://www.ecolosia.jp>

気象観測器を設置 永地区の最寄りの気象観測所

気象観測装置ウェザーステーションを
8月31日に設置しました。

観測できる主要な項目は
気温、結露点、湿度、
風速、瞬間風速、風向、
時間雨量、累積雨量、
気圧、
日射量、UV指数 です。

設置のきっかけは、第二発電所のご近所
さんに今はこういう精密な気象観測装置
があることを教えていただいたことでし
た。

その後色々と調べて、設置場所から離れた
場所からもインターネットで現場情報
を見ることができる機種を見つけました。
これを、アメリカにあるWeather
Underground
(<https://www.wunderground.com/>)と
いうサービスに登録して、世界中に観測
データを公開できるしくみです。

一番右のグラフは、台風9号が木更津上空
を通過した8月22日の観測データです。
午後1時34分が最接近時刻で、980.6hpa
まで気圧が下がったことなど、興味深い
記録が取れました。

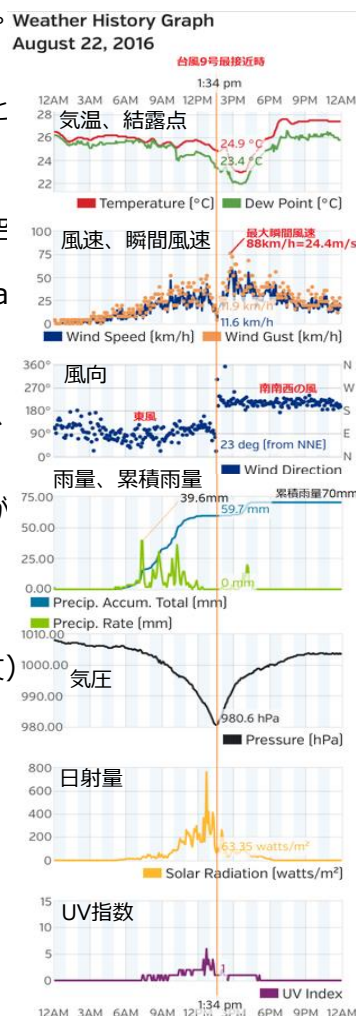
以下のホームページにアクセスできれば、
永地の皆様にとって、気象庁や気象会社
の提供するデータより、一番最寄りの地
点の5分ごとの最新のデータを知ることが
できます。英文ですが、簡単な表記です
のでぜひお役立てください。



第一発電所の気象データ（英文）
<http://bit.ly/2cg8oZH>



台風9号通過時(2016/8/22)



袖ヶ浦火力発電所新設について



ご存知ですか？袖ヶ浦に原発2基分の巨大な石炭火力発電所の建設
計画が進められていることを。

地球温暖化抑止のため、昨年、画期的なパリ協定が成立しました。
世界各国が協調して子供たちの未来のために挑む、タイムリミット
ぎりぎりの取組みが始まり、これに呼応して、各国は脱石炭と自然
エネルギー利用増大を次々と宣言している状況です。
それなのに、日本の一部の企業や政府は世界の希望に水を差す石炭
火力発電所の新設計画を打ち出している悲しい現実があります。
その舞台の1つがなんとこの袖ヶ浦です。

石炭は燃やすと化石燃料の中でも一番多くCO2を排出し、天然ガス
火力発電（LNG）の約2倍。高効率でクリーンと言われている発電設
備（IGCC）でも石油火力と同じぐらいのCO2排出量。これは地球
温暖化の面から見ると致命的な量です。
それ以外にも、SOx（硫黄酸化物）やNOx（窒素酸化物）などの大
気汚染の原因物質も排出し、PM2.5は、中国から飛んでくるだけで
でなく、石炭火力発電所からも出ます。

大好きな袖ヶ浦を日本の汚点の象徴にされたくない。未来をになう
袖ヶ浦の子供たちのための環境を守りたい。そう思います。
（詳しい情報源⇒ <http://sekitan.jp/home/>）

千葉袖ヶ浦火力発電所1号機（仮）／千葉袖ヶ浦エナジー／袖ヶ浦市
設備容量：100.0 万kW：運転開始予定：2025年

千葉袖ヶ浦火力発電所2号機（仮）／千葉袖ヶ浦エナジー／袖ヶ浦市
設備容量：100.0 万kW：運転開始予定：2026年

期間限定、Adidas発電所 始動！ ～ネーミングライツ（命名権）の手法で～



当社第二太陽光発電所は、第一発電所運転開始の半年後に稼働開始し、1年半が経過しました。場所は、長泉寺通りを南に、谷中の交差点を過ぎ、ずっと道なりに車で10分ほど進み。中郷小学校の三叉路の手前にあります。第一発電所と同じ50kW未満の低圧発電所ですが、太陽光パネルの枚数は288枚＝72kWです。こちらの発電所もコミュニティ貢献型の発電所を目指して作りました。

第二発電所の電気も、本年3月より**みんな電力**（東京・世田谷区）へ供給されています。

同社のホームページENECT編集長 平井有太氏が、世界的スポーツブランド、アディダス社等の協賛

を得て11月22日から東京・高円寺にて個展を開くにあたり、アディダス社が当社第二発電所の命名権を買取り、アディダス発電所として期間中の会場の電力を供給することとなりました。

個展のメインテーマは「電力」。国内で初めて、電力の供給権を最先端のアート作品として扱うという前衛的な取り組みで、当社発電所の理念や取り組みが評価された企画です。

期間中は発電所の看板が掛け替えられますが（下図を参照）、第二発電所をアディダス社へ売却したわけではありません。これからも非常時電源役を担い、地域に貢献できる発電所であり続けます。



アーティスト、ライターとして活動する東京出身、41歳の平井有太。311以降に3年間福島市に住み、『福島 未来を切り拓く』、『バイオクラシー 福島にすでにある』を著作。11月22日から12月24日まで、Garter@キタコレビル（東京都杉並区高円寺北3-4-13）で個展を開催。



熊本地震の調査から災害時の太陽光発電所の役割を考える



本年4月14日、16日と2度にわたり最大震度7に見舞われた熊本地震における太陽光発電システムの被害状況を調査する第二次調査団に参加しました。6月24～25日に一番被害が酷かった地域のひとつである益城町を訪れました。

写真左上は、ドローンで空撮したものです。2か月以上が経過してもなお、災害がれきの片づけはまだまだといった状況で、屋根にはたくさんのブルーシートが張られたままでした。写真中央は座屈した家屋上の太陽光パネル、右は「負けんバイ」と不屈の闘志を表した民家の張り紙です。激震が2度も襲ったとはいえ、家屋倒壊などの大きな被害は断層に近い帯状の限定された区域に集中していました。

中間報告書は来月にまとめられる見込みです。

町営の体育館などの大きな避難所では政府や全国の電力会社が手配した電源車が活躍し、公的支援が機能しました。しかし、被災者全員が大きな避難所に収容できたわけではなく、小さな避難所、空き地等

での車中泊では電気や給水、物資配給など大変不自由したようです。

熊本地震の後、10月21日には最大震度6弱の鳥取地震が発生しています。もういつ関東や東南海に大地震が来てもおかしくないと気を引き締める時節が来たように思います。

万一、これらの地域で発災した場合、被害の範囲から公助は期待しづらく、共助がうまく行かか明暗を分けると思われます。非常時の際にはお役に立てるよう、第一発電所には永地公民館に給電できる蓄電池システムが装備されています。使われないことを祈りながらも必要な鍵や使用マニュアルは区長様とお隣の松本様にお預けしてます。

